

であい



Northern Regions Center (NRC)
社団法人 北方圏センター

外 国籍住民と互いに異なった文化を理解して共に生きようという多文化共生(※)の実現を目指す目的で意見交換会を開催した。留学生、北海道海外技術研修員や一般企業等で仕事をしている外国人で長期間北海道に滞在している人たち約20名の参加があり外国人たちが日々の生活の中で感じている疑問や困難なこと等を聞く良い機会となった。その中から外国人たちの率直な意見をいくつか紹介する。



在住外国人のみなさんの声を聞いた意見交換会

日本で生活していて一番困ったことは？

- ・ 銀行ATMの終了時間が早い(アメリカでは24時間)
- ・ 券売機、自動販売機等の表示がわからない
- ・ バスの運行時間が平日と週末で違う
- ・ ゴミの捨て方がわからない、等。

言葉や文化の違いからトラブルを経験したことは？

- ・ 先輩や後輩の関係や接し方がわからない
- ・ 食事(飲み会)の時に、2次会、3次会がある
- ・ 東京で道を聞いた時、知らんぷりをされた。日系人だからなのか
- ・ 異性への接し方(自国では友人間でハグ等をするのは当たり前)
- ・ 上司に仕事の相談をしたら「難しい」と言われたので頑張ろうと思った。しかし、それは「ダメ」という意味だった、等。

突然大きな地震が起きました。

どこへ避難すれば良いか知っていますか？

- ・ 情報をもっていない
- ・ ハザードマップをもらったが何のために使うのかわからなかった
- ・ 住み始めて半年もたってからハザードマップを渡された、等。

日本について、素晴らしいと思うことは何？

- ・ 人々が礼儀正しいところ
- ・ サービスが素晴らしい
- ・ 買い物や支払いの利便性(100円ショップ、公共料金をコンビニで支払いできること等)
- ・ 医療と保険システムが完備している
- ・ それぞれの町に名産品や郷土料理がある
- ・ 夜も安全に歩ける
- ・ バスが時間通りに来る！
- ・ ウォッシュレット！、等々。

当日は、札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」(札幌市南区小金湯)の施設を見学、学芸員の説明でアイヌ文化を学んだ後、日本文化・日本食体験として寿司を握って味わった。くつろいだ雰囲気の中で様々な声を聞くことが

できた。

日本人が当たり前と思っている事柄を外国人たちはおかしい?、わからない、凄いと感じている。違って見えているモノ・コトが多いのに、「そうなの!」と逆に驚き、考えさせられる。日本人の側から見た多文化理解でもあることが興味深い意見交換会であった。



「札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)」で学芸員から説明を受ける在住外国人のみなさん

今後は、地域住民と外国籍住民が同じ地域の一員として、互いに尊敬しあい共生する環境づくりを推進する事業を実施していきたい。
(事業担当:交流部)

注(※)総務省発行の「多文化共生の推進に関する研究会報告書」(2006年3月)の中で、地域における多文化共生を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義している。

札幌市アイヌ文化交流センター

サッポロピリカコタン

Sapporo Pirika Kotan

札幌アイヌの人たちが製作した数々のアイヌ民族伝統工芸品を、その場で見て、触れて体験できる先住民族の施設です。

- 開館時間 8:45~22:00 (展示室は9:00~17:00)
- 休館日 月曜、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)、毎月最終火曜日
- 展示室観覧料 一般200(180)円、高校生100(90)円、()は団体料金
- 問い合わせ、連絡先 電話 011-596-5961 FAX 011-596-5967
〒061-2274 札幌市南区小金湯27

特集

在住外国人との意見交換

北方圏センターの多文化共生事業

平成22年3月12日

サッポロピリカコタン

